

## 食事・排泄・入浴（拒絶・拒否以外）

No.	表題	症状・BPSDについて 起こった出来事	事例提供者	背景や生活状況、病状など	症状・BPSDに対して 行った支援	結果 その後のご本人、介護者の状態
1	1	自分の食事に集中できない	訪問看護ステーション 看護師	施設に入所中。他の利用者と同じホールで食事を食べている。	食事に集中できるように個別で食事ができる場所を用意した。	自分の食事に集中して食べるようになった。
2	2	食事をかきこむように食べてしまう	訪問看護ステーション 看護師	娘と妻との3人暮らし。認知症により発語が少なく、嚥下状態が悪い。	スプーンを小さいものに変えた。	1口量が減り、むせが減った。
3	3	見た物を全部食べてしまう	訪問看護ステーション 看護師	就労している孫2人と本人の3人暮らし。週3回デイサービスに通所している。	必要量以上の食事やお菓子は本人の前に出しておかないようにしたり、食事は大皿ではなく家族それぞれに個別に出すようにした。	必要量以上には食べることはなくなった。
4	4	好きな物を食べ過ぎてしまう	訪問看護ステーション 看護師	妻と2人暮らし。糖尿病のため血糖降下剤内服中。日常生活動作は見守り。認知症状は徐々に進行している状態。	紙に「高血糖の為、食事内容の改善が必要です。菓子パンは1個/日までにしましょう」と書いて壁に貼った。	その日より菓子パンを食べなくなり、妻が作った食事を食べるようになった。また、自分は糖尿病である事を意識して生活ができるようになった。
5	5		訪問看護ステーション 看護師	施設に入所中。自力歩行可能であるが、転倒の危険もあり、センサーマットを使用している。	本人の部屋からトイレまでの道のりに矢印で案内する紙を貼り付けた。	トイレで排泄できるようになった。
	6	トイレの場所がわからない	居宅介護支援事業所 ケアマネジャー	夫と2人暮らし。	トイレに行きたそうな様子がないか、本人の仕草を観察し、時間を決め、決まった時間でトイレ誘導をした。	トイレ以外の室内での排泄行為はほとんどなくなった。施設内を歩いて回る行動は継続するが、歌を口ずさむ様子が見られるようになった。
6	7	トイレ誘導で混乱する	デイサービス 看護師	身体面の自立度は高い。認知機能の低下がみられ、失行・失認がある。それにより介護者の話がうまく伝わらない。	認知症状により介護者の話がうまく伝わらないので、過度な声掛けをすると混乱を助長すると考え、混乱した場合は一度関わりをやめてデイルームに戻るなど工夫した。	過度な声掛けをせず、テレビを見てもらっているうちに落ち着いてくる。自ら席を立ち上ろうとするタイミングでトイレに誘導すると、スムーズにトイレに行き排泄できた。
7	8	トイレに行きたくてそわそわしてしまう	訪問看護ステーション 理学療法士	独居で自宅内で転倒し手術をした方である。入院前から日常生活動作が低下していたが、つたい歩きはできる。	ヘルパー、家族の協力により訪問回数を増やした。また、訪問時間を排泄時間にあわせ、トイレ誘導をした。	失禁の回数が減り、落ち着いてトイレに行けるようになった。

## 食事・排泄・入浴（拒絶・拒否以外）

	No.	表題	症状・BPSDについて 起こった出来事	事例提供者	背景や生活状況、病状など	症状・BPSDに対して 行った支援	結果 その後のご本人、介護者の状態
8	9	失禁で衛生面が保たれない	布パンツを使用している。失禁が多量にあるが、本人は失敗したことを認めない。そのため、自宅内の衛生面が保たれていない。	居宅介護支援事業所 ケアマネジャー	独居。数年前に散歩中に脳梗塞で倒れた。高血圧であるが病院、薬嫌いである。「自分の身体は自分でわかる」と服薬をしない。デイサービスを毎日利用している。	家族が関わろうとすると怒るため、馴染みのスタッフがいるデイサービスで顔見知りの支援者を増やし、情報を共有した。	失禁はあるが、馴染みのスタッフが増えたことで安心でき、リハビリパンツへスムーズに移行できた。
9	10	排泄後の後始末が難しい	便座に腰を下ろすまで見守りが必要となった。排泄後に汚れた紙を持ったまま出てきたり、ポケットに入れていたり、便器の汚れを手できれいにしようとする行動がみられた。	デイサービス 介護職	トイレでの排泄は自立していたが、次第に介入が必要になった。	排泄が終わった時を見計らって声を掛けて中に入り、手に持っている汚れた紙を便器の中に捨ててもらった。ポケットに入れてしまっていた時は、「〇〇入っていませんか？（〇〇は、紙と言わないで他の物の名前を言う）、ちょっとポケットの中を見てみて下さい」と言い、自分でポケット内を探してもらうようにした。	本人に探してもらったり捨ててもらったりして対応した結果、トイレ内で見守りができるようになり、清潔が保てるようになった。
	11		声掛けの誘導でトイレまで自分で行くが、トイレでの行動が分からなくなる。使用後の紙をしまい込んでしまうことがある。	デイサービス 介護職	夫、娘と3人暮らし。別居している娘2人が、時折自宅に来て介護に関わることがある。	本人の様子を見ながら、次の動作ができるように声掛けをした。紙は便器に捨ててほしいと伝えた。	声を掛けると怒りっぽくなってしまいう時があるが、そのような時には危険のないように見守り、改めて声をかけ直すことで紙を便器に捨てられるようになった。